



まみころ祭りのご参加、ありがとうございました。

朝晩は暑さも少しずつ和らいできて、心地よい日も増えてきました。夕方から開催されたまみころ祭りには多くの方に参加して頂きありがとうございました。園庭で友達や職員を見つけると、笑顔で手を振ってくれる姿や、少し緊張しながら参加してくれた子もいました。お楽しみのゲームをお家の方と一緒に回ったり、太鼓の披露が始まると、友達と一緒に近づくに寄り、太鼓の音に合わせて身体を動かし笑いあったりする姿にほっこりしました。短い時間ではありましたが、夏の終わりの良い思い出となってくれたら嬉しいです。



友だちとの繋がり

今年度も早いもので6か月が経ちました。朝の登園時に同じクラスの友だちが登園すると、「〇〇くん、おはよう」と玄関までお出迎えにいき、友達の登園を喜ぶ姿が見られることが多く、仲間意識が深まってきているのだと感じ、微笑ましく見ています。体調不良で休んでいた子が久しぶりに登園した際にも、先に来ていた子が「せんせー、〇〇くんの名前がないよ(ロッカーの名前)」と心配して声をかけてくれました。登園し、ロッカーに貼ってある名前やマークをみて、今日は誰がくるのか確認し楽しみに待っているようで、朝の登園から子どもたちは色々なことに気付き、感じていることに気付かされました。

プール遊びが終わり、朝の支度を終わると自由遊びで玩具を通してじっくり友だちと遊べたり、全員揃うとすぐに園庭に遊びに行き、体を動かしたりしています。さまざまな遊びを通して、友達との楽しい気持ちを共有したり、それぞれの思いを伝え合ったりする経験を重ねていながら、心地よい関係を築いていって欲しいと思います。子どもたちの様子を見守ったり、職員が関わったりすることで繋いでいき、友達の輪を広げていってほしいなと思います。



🌻たいよう🌻

＜きれいな色に誘われて ～シャボン玉遊び～＞

9月のある日、まつのきプールから戻って中庭でシャボン玉遊びをしました。ただのシャボン玉ではありません！食紅3色で色をつけたカラフルなシャボン玉液を用意しました。ストローはシャボン玉用の太いものではなく、あえてジュースを飲むときのような細い物を使います。

5月にストローを使ったおもちゃで遊んだときに、うまく吹けず「もうやらない」とすぐにやめてしまった子がいました。そのとき遊ぶ様子を見てみると、唇が閉まらず前歯でストローを噛んでいました。「こうやって吹くの。見てて」とやり方を見せますが、下を向いてしまいました。その表情が気にかかり、もう一度ストローを使って遊びながら吹き方を獲得したいと考えていました。5月から時間が経過し、プール遊びや様々な運動で体もたくましくなったはず！カラフルなシャボン玉なら興味を持って遊んでくれるかな、と予想しました。ストローもシャボン玉用の物だと少し息を送るだけで簡単に泡が出てきます。ジュースを飲むときのような細いストローは、しっかり口を閉じないと泡が出ないので、そちらを使いました。いざ遊びが始まると、それぞれ好きな色のシャボン玉液を選んでずっと吹いていました。5月のときのような表情はもう見られず、しっかり口も閉じて吹けるようになっていました。中庭に白い模造紙を敷いたのですが、その上にシャボン玉が落ちると丸い模様ができました。「みて、ここに顔がある！」と模様に気付いて教えてくれました。遊びながら様々な動作を獲得していきたいと思います。

☆ほし☆

＜友だちの存在を受けて、やってみる～友だちとつながる～＞

ある日登園してきたAくんが保育者に言いました。「Bくんみたいにね、できたの」（鼻をつまんでプールにもぐる遊び）保育者が「すごいね。Bくんが来た日にそのこと言おうよ。Bくん喜ぶよ」と伝えました。次の日さっそくAくんはBくんにそのことを伝えました。Bくんはびっくりした顔を見せましたが、すぐに嬉しそうな表情になりました。そして「ねえ、Aくん、一緒に遊ぼうよ」と声をかけてくれました。

また、Cくんは虫が大好きです。「ミーン、ミーン」「オーシーツクツク」と時期によってセミの鳴き声も違いました。Dくんはそのことが面白いと感じたようです。同じようにセミの鳴き声を真似しながら、中庭に出た時に「ねえCくん、セミごっこやろうよ」とCくんを誘っていました。どんな遊びをするのかな？と保育者は見守っていましたが、一人がセミの真似をしながら走り、捕まえるという鬼ごっこのような遊びでした。Dくんは友だちが増えればもっと楽しくなる！と思ったようで「ねえEくん、Eくんも一緒にやろう」と仲間を誘っていました。何度か遊びを繰り返し、部屋にもどってくると、とても満足そうな表情でした。

あそびには『遊び』『あそび』と二つの要素があるそうです。『遊び』は大人が提供するもの『あそび』はこども自身が見つけたあそび 一見ムダに見えるようなものも含まれます。子ども達が見つけた、楽しい『あそび』は自然発生的に広がります。友だちに憧れをもち、やってみたいという意欲があるからこそ、仲間とのつながりが出てくるのだと思います。これからも子どもの興味関心にそって『遊び』と『あそび』を行っていききたいと思います。